

村研の運営について

有賀喜左エ門

村研第二回大会が開かれる事となり、当然協議会も着にれる筈ですから、今度の協議会で論議すべき村研の運営改善について、会員諸君が建設的な御意見を沢山出して下さり争を期待もし、お願いもしたいと思ひます。その点では従来の研究通信は最近余りふるわぬのは残念です。協議会ではお互に腹のあたり接して盛んな話し合いを、去年の大会の時のように、したいものだと思ひます。私達事務局のものは会員から手さ

びしい意見が出来るとやたらにうれしくなります。そぞろないと熱がなくほつたのかと悲観せざるを得ないのです。もう一年やって来てマンネリズムに陥ってしまつたうでは大変ですから、今度の大会を持ち継ぐべく待つてあります。

さて村研の運営の事ではじろ／＼考えるべき事があるようですが、ここに気のついた事を安心してしますが、ここに気のついた事を二、三書いて、協議会の時に議論して頂けたらと思ってます。

村研の運営と云つても、大会の仕方も勿論大切ですが、大会をうまくやるにはやはり

り平素の研究活動を充分にやっておく事が大切だと思います。それについて毎年の宿題をせんね風に研究活動につづつかは大きな問題と存じます。今年の宿題で奥地に調査をした方々は、その調査研究の仕方に付けていろいろな不便を経験した事と思ひます。今年の宿題についてと限ったわけでもなく、一定の課題の研究についてすでに感じている事でもまいですが、村研の如き研究活動に共通の困難を持たせる場合に、どう風に将来すべきであるかよく考えておいて頂きたいと思ひます。

これに簡単に毎年の宿題の進め方が決

当であるか。将来はせんね風にこれをきめて行く方が良いか等の御意見を是非お聞きしたいものと思ひます。毎年の宿題が何等か困难を持つべき事は望ましいとしても、かなり異なる問題をとり上げる方が良いかどうか等の因縁もありそうに思ひます。次に事務局も今年で二年、東京教育大学が担当しましたが、それも最初各大学で交代して担当する約束のよう、「新風をとり入れるにはやはり交代する方が良い」と思ひますので、これに因しても御配慮願いたい